

2026年度 事業計画書(案)

I. 事業方針

国際秩序が大きく変化する中、国民の豊かさを維持向上するためには日本は「強い経済」を実現しなければならず、ミクロレベルでは我々は「強い会社」を実現することが強く求められている。(一社)日本歯車工業会は経済産業省製造産業局産業機械課様との連携を更に密にしながら、会員企業各社が「強い会社」になるためのサポートに全力で取り組み、会員企業に頼りにされる「強い工業会」を目指したい。

新入会員の皆さまも増加しておりメンバーファーストを常に考えご要望を真摯に受け止め情報交換会等、新たな取り組みも行っていく。

「ギヤカレッジ」「ギヤカレッジフォローアップ委員会」「若手経営者研究会」「技術研修会」等の教育事業は業界の永続的発展のために必要不可欠であり更なるブラッシュアップにより期待に応えていきたい。

昨年の11/23(日)～11/30(日)、業界の若手人財の育成を主眼とした「Euro Gear Tour 2025」には多くの皆さまにご参加いただき、一日一社、5社を見学。移動⇒工場見学⇒情報交換会を5日間連続で行ったハードスケジュールの中、参加メンバーの協力と訪問先各社のおかげで充実した視察となった。2026年度も毎年続けている海外視察を継続し各社の人財育成をサポートする。また、国際的な視野を維持すべく双方向往来での交流を続けている「台湾歯車協会」との絆を強める機会も設けたい。

昨年度、標準化委員会内の分科会として「計測分科会」を発足した。ISOでの動きに合わせ日本としての主張を強化する。本年9月には日本においてISO国際会議WG6の開催が予定されており開催国としてホストの役割を果たしたい。

事務局がしっかりしていなければ、様々な事業を行っていくことができない。事務局機能の更なる強化にも取り組むとともに、今まで以上に情報発信にも力を入れ(一社)日本歯車工業会のプレゼンスを高めていきたい。

2028年の創立90周年に向けての準備にも着手し、2038年の創立100周年を見据え「強い工業会」を会員の皆さまと一緒に創り上げていきたい。

Ⅱ．実施事業

1．研修会

歯車製造分野における高齢化に伴う後継者への技能伝承のために、次世代の経営者および技術者を対象として歯車に関する基礎教育を重点に支援を行う。また、会員同士の交流を深め、新たなビジネスチャンスを創出できるように事業を推進する。

1.1 経営研修会

優良企業の見学会、並びに人材開発、教育、経営管理等の実例に基づいた改善活動事例の研修会を年3回開催予定。経営力・技術力の強化を目的とし、研修会を通して経営・技術上の有益な情報・知識を習得し、事業発展に生かす。

1.2 技術研修会

大学教授、業界の第一線技術者より講師を選定し、目的に沿った演題を設定した歯車技術研究会（日本機械学会：歯車基礎技術講座等）を日本機械学会やその他の団体と連携で年3回協賛開催する。

また、産学連携を推進することを目的に、講演や訪問を通じて大学などの研究機関との間で相互理解を深めるとともに活発な交流に繋げる。年2回実施予定。

1.3 若手経営者研究会

次世代経営者（および候補者）による相互研鑽とネットワーク構築を目的とした歯車業界の技術者、経営者育成事業を推進する。年2回開催予定。

2．人材育成・教育

企業の長期安定的な発展の基礎となる中核人材育成事業を実施する。産業技術の競争力向上、そのための技術力強化は歯車工業会の基本的なミッションの1つであり、次世代を担う技術者養成のための人材育成事業はその根幹にある。

2.1 ギヤカレッジ企画運営委員会

歯車技術全般を学べるギヤカレッジの企画運営を行う。

- (1) JGMA ギヤカレッジ マスターコース（基礎講座） 定員 30 名

歯車の基礎(材料・熱処理等含む)・設計・製造に関する講義（必修）、体験により

理解を深める現場実習（選択）から構成される。

(2) JGMA ギヤカレッジ プロフェッショナルコース（応用講座） 定員 20 名

応用に重点をおいた歯車の設計・製造・性能評価に関する講義（必修）とトラブルシューティング(破損歯車の原因究明とその対策)の講義・演習（選択）と現場体験実習（選択）から構成される。

2.2 ギヤカレッジフォローアップ企画運営委員会

JGMA ギヤカレッジ修了生を対象に、共通する技術課題の解決および技術交流の促進を目的としたフォローアップ研修会を企画・運営する。修了生による自主運営を原則として、JGMA のネットワークを活用した専門家による技術講演と、受講生同士のディスカッションを中心とした双方向型の内容とし、歯車技術者の技術力向上、人的ネットワークの強化を図る。

3. 規格・標準化事業

グローバル化が進む歯車業界における競争力強化に向けて、ISO規格の制定、改訂への積極的な関与がますます重要になる。日本歯車工業会は、永年に渡りISO/TC60(歯車専門委員会)において全ての事案への投票義務を負い、規格作りに積極的に参画してきた。2022年度より3年間のJKA補助事業「国際競争力強化に資する標準化の推進」の支援により複数の委員を国際会議に派遣をすることが出来た。この3年間を通じ新たな委員の育成もすることが出来た。

本年度より、新たに3年間のJKA補助事業「国際競争力強化に資する標準化の推進」の申請を行う。国内に技術的な検討を行う工業会の枠を超えた分科会を立ち上げ、日本の意見を集約してISO会議に具申出来る体制を整えていき日本の意見をISO規格に反映していきたい。

4. 海外調査・対応事業

会員企業のグローバル化促進を目的に、海外の展示会（EMOやIMTS等）への参加や歯車関連企業、機関への訪問を企画、実施する。また、海外からの情報交換、友好事業の申し入れに対応する。

今年度の海外視察先は検討中

5. その他

5.1 生産性向上設備投資促進

産業競争力強化法（平成25年法律第98号）の規定に基づく先端設備に該当する旨の証明書

を発行する団体として、引き続き、証明書発行サービス等の事業を行う。

5.2 広報委員会

5.2.1 歯車関連製品に関する生産、流通等の調査

会員企業並びに歯車産業界における、歯車関連製品の生産動向並びに需要先別調査を継続して行い、業界動向を把握し、データ解析のうえ企業経営の一助として情報を提供する。

5.2.2 広報・PR事業

工業会の活動状況等の情報を会員企業や学術教育研究機関、マスコミ、シンクタンク等にホームページや機関誌等で提供することにより、関連企業及び分野に広く情報を発信していく。また、日刊工業新聞には年3回、他の新聞紙への広告記事を複数掲載すると共に、会員企業へも同時参加・掲載の呼びかけをする。

更に学会や他団体主催見本市等に協賛・参加し、率先して国内外に当団体の存在をアピールする。

5.2.3 機関誌の発行並びにホームページの充実

機関誌「JGMA News」（年2回）を継続発行し、歯車産業に関する各種最新情報及び話題、関連業界の動向、経済産業省の各種施策、工業会活動報告等を広く情報を提供していく。今年度より「JGMA News」をはじめ、ホームページ内の英文化をより進めて海外にアピールする。

また、会員情報や書籍販売、各種統計等の最新情報をホームページに随時更新する。

5.3 総務委員会

5.3.1 各種団体保険の加入促進

当会にて従来から制度化している「団体PL保険」並びに「団体生命保険」について、さらに多くの会員企業に有効的に活用していただくため、加入促進活動を行う。

両制度の継続と規模メリットを享受していただくため、今後も活動を強化していく。

5.3.2 他工業団体との交流・連携

当会は日本機械工業連合会、機械振興協会、日本工作機械関連協議会の団体会員とし、定期会合や委員会等に参加するとともに最新業界情報等の共有を行い、交流を深める。

以上